

文部科学省の姿勢

- 原子力教育支援情報提供サイト、あとみんな
<http://www.atomin.go.jp/index.html>
- 「放射能を正しく理解するために」4/20
こどもに年20ミリシーベルトの被曝を許容
内部被曝の危険性を矮小化
推進した責任、しかし、PTSD対策を語る

命より大切な授業なんてどこにもない

Physicians for Social Responsibility お医者さんの団体(合州国)の批判

文部科学省が出した子供に年間20ミリシーベルトの基準(もともとは1ミリシーベルト)に警告。これは子供が200人にひとり、2年でふたり癌になる確率。同時に、子供の感受性が高いこと、被曝量が少ないとしても危険があることを指摘。

退避地域の拡大が望まれる

放射能による被害／情報による被害

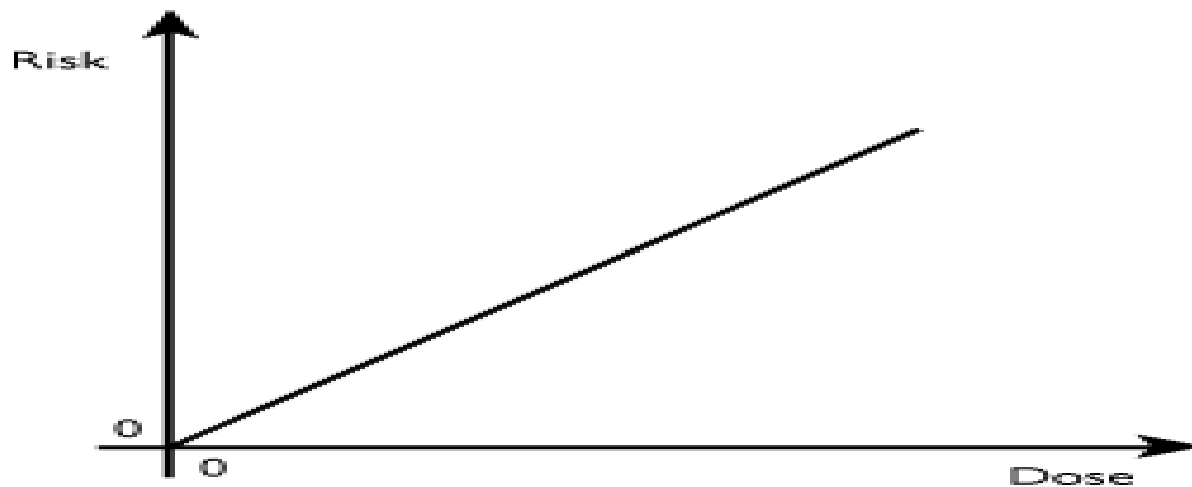
原子力安全神話だけを浸透させ、事故、現場の健康被害、環境破壊を市民の目から隠してきた行政、政界、産業の責任は重い。

その結果、国際放射線防護委員会(ICRP)の基準さえほとんどのひとが知らない。ヨウ素剤も結局無駄になった。

今後の健康被害が心配される
医療体制の抜本的な見直しで対応が望ましい

まず、外部被曝とは

線形閾値なしモデル(国際放射線防護委員会)



外部被曝、その留意点

- 『線形閾値なしモデル』が示していることは、一定量以下ならば安全という値は、放射能に関して存在せず、少量の被曝でもそれなりの危険がともなう。つまり、**できる限り被曝は少なくしたほうがいい**、ということ。
- 『直ちに健康に影響が出る数値ではない』とは、あとになって健康被害を受ける可能性があるということ。